

### ロッシーニ没後 150 年

今年 2018 年はロッシーニ没後 150 年。ロッシーニの生涯をたどりながら、今日なお世界中で上演され続ける作品の魅力をご紹介します。(★は請求記号)



### ロッシーニの生涯

ジョアキーノ・アントニオ・ロッシーニは 1792 年 2 月 29 日、アドリア海を望む北イタリアの小都市、ペーザロで生まれた。町のトランペット&ホルン奏者だった父に音楽の手ほどきを受け、14 歳でボローニャ音楽学校に入学した。18 歳でヴェネツィアのサン・モイゼ劇場に「結婚手形」を書き、以後つぎつぎとオペラ・ブッフアを作曲し、名声を高めていった。1816 年 2 月のローマ、アルジェンティーナ劇場の「セビリアの理髪師」でその名を揺るぎないものとし、「オテッロ」「チェネレントラ」で国外でも話題となり、ベートーヴェンにも会うことができた。

1829 年 37 歳でそれまでの集大成「ウィリアム・テル」を発表、大成功をおさめたが、これを最後のオペラとして、76 歳で世を去るまで二度とオペラを書くことはなかった。以後ボローニャ、フィレンツェ、パリに移り住み、料理店を経営するなど余生を送り、宗教音楽や歌曲、ピアノ曲を残した。

私生活では 1822 年人気絶頂の歌手イザベッラと結婚するが、やがて別居。妻の死後の 1846 年、かねてからの知り合いだったオランブ・ペリシエと再婚、彼女は病気がちだった後半生のロッシーニに献身的に尽した。1868 年 11 月 13 日パリ郊外の別荘で永眠した。遺体はペール・ラシェーズ墓地に埋葬されたが、1887 年フィレンツェのサンタ・クローチェ聖堂に移され、今もそこで眠っている。

### ロッシーニの作品

39 作のオペラはイタリアオペラの金字塔

- セビリアの理髪師 イタリアオペラの中で最も有名なもののひとつ。理髪師フィガロの機知で医師バルトロの妨害を逃れ、ロシーナとアルマヴィーヴァ伯爵が結ばれる物語。アバド指揮、ジャン=ピエール・ポネルのスカラ座盤は★DVD846
- ウィリアム・テル 37 歳でオペラの筆を折る直前の作品。スイス独立運動の闘士ウィリアム・テル、敵の王女を愛し愛国心と恋の板ばさみに悩むアルノルド。ムーティー指揮、スカラ座盤は★DVD1312-13
- オペラから引退したあとの宗教作品「スタバト・マーテル」や歌曲「音楽の夜会」「老いのいたずら」なども再評価されている。

### 美食家ロッシーニ

考案した創作料理が今日の料理書にも収められるほどの食通だった。逸話は面白おかしく語られ、「怠け者」「食いしん坊」のイメージが一人歩きしてしまった。幼年時代をソーセージの本場ボローニャで過ごし、早くから美食の本能に目覚め、豚肉屋になりたいと思っていた。彼はなぜオペラ作曲の筆を折ったのか？パリの美食の黄金時代を築いた天才料理人との出会いとは？ロッシーニ研究者による探求の書。

『ロッシーニと料理』水谷彰良、透土社★6.9-R736M-2000

## 所蔵資料紹介♪

### 【音源資料】

ロッシーニ：歌劇『セビリヤの理髪師』全曲 LPレコード ★T84.1-3

アルバ (T) ベルガンサ (Ms) ダーラ (Bs) プライ (Br)

アバド指揮、ロンドン交響楽団、アンブロジアン・オペラ合唱団

2014年に死去したクラウディオ・アバドの歴史的名盤。71年に若きアバドがスコアを徹底的に分析し、それまでとは別の生命力溢れる音楽を創出した。ロジーナにベルガンサを起用、当代最高の当たり役アルヴァのアルマヴィーヴァ伯爵、ヘルマンプライのフィガロと当時を代表する歌手たちの歌が、今日なお色あせない。ゼツダ校訂のクリティカル・エディションによる最初の全曲録音。

### 【図書】

『ぴあ オペラワンダーランド：保存版！これだけはおさえないオペラのイロハ教えます』

ぴあ、2016 ★1.8-P57-16

ぴあがジャンルごと初・中級者向けに編集したガイド本のオペラ編。オペラの基礎知識や歴史、演目ガイド、国内外の劇場ガイドなど、オペラの魅力を様々な角度から写真やイラストを交えてわかりやすく紹介。どんな服装で行けばいいの？マナーは？海外の劇場のチケットはどうやって取ればいい？といった「観劇デビュー」への不安も解消してくれる。

このほかに、同シリーズではクラシック編とバレエ編を所蔵。(いずれも2016年発行)

『ぴあ クラシックワンダーランド』 ★3.0-P57-16

『ぴあ バレエワンダーランド』 ★1.9-P57-16

### 【映像】

ロッシーニ・オペラ・フェスティバル

『パルミラのアウレリアーノ』スパイレス (T)、プラット (S)、クラッチフィールド指揮、ロッシーニ交響楽団 他 ★DVD2183-84

ロッシーニのあまり知られていない作品を上演し世界的に広めることを目的に、毎年8月にペーザロで開催されている「ロッシーニ・オペラ・フェスティバル」での2014年の公演。彼のオペラの中で唯一カストラートを想定して書いたとされるこの曲は、1813年のミラノ・スカラ座での初演後は人気を博したにもかかわらず、忘れられてしまった作品。

同音楽祭の映像資料は、他にも『ブルゴーニュのアデライーデ』2011年 ★DVD1938-39  
など、DVDで10点所蔵。

☆オンライン辞書・事典検索サイト「ジャパンナレッジ」内の連載記事『図書館員が気になる図書館』で音楽資料室を取り上げていただきました！資料室はどんな所なのか、司書はどんな仕事をしているのか？などが紹介されています。ぜひご覧ください☆

<https://japanknowledge.com/articles/libguide/>